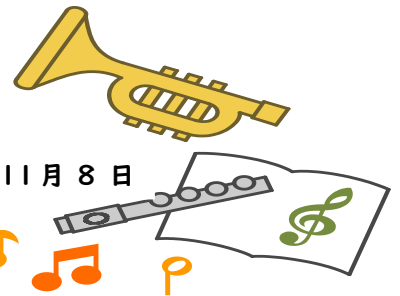




校長室だより

令和5年11月8日



スモールステップで前進を

少し前のことですが、棋士の藤井聡太さんが、前人未達の八冠達成をしたことについて、連日の報道が続いていました。八冠達成を決めた直後のインタビューに藤井さんは、「頂上が見えるということはまったくくない」と語っています。みなさんは、この言葉をどうとらえますか？藤井さんがとても謙虚な人柄なのか、勝者の顔をすることに慣れていないだけなのか…。見方はいろいろあると思います。ただ、間違いないのは、「今まで目の前のことを一生懸命やり続けた」結果として、誰も成し遂げたことのない八冠を達成したことが「ゴール」ではなく、「これからも挑戦し続けていくのだ」という藤井さんの強い決意が、この短いコメントに込められているということです。そんな藤井さんを「語るぬ実力者」「かけ算式成長を遂げた人」と表現しているメディアもありました。

「かけ算式成長」とは、例えば、現在の実力を1だとし、目標を100に設定しましょう。努力をすれば、倍の2に、さらに努力をすれば2倍の4へと成長します。さらに努力を継続すれば、8、16と伸びていきます。そして、時には、「こんなに努力しているのにまだ16か」と落胆したり、自信をなくしたりすることもあります。その難所を乗り越えれば、32、64、128となり、当初の目標値はクリアします。努力を始めてから成果が見えるまでには、こんなふうな一定の時間がかかるものです。16に伸ばすまでの努力や苦労があってこそ、16の後は目覚ましい成長を遂げることができます。

これらのことを、皆さん1人1人が持つ「今の目標」に置きかえてみると、目標に対してどのくらい達成できているでしょうか。「目の前のことを一生懸命やり続けること」と「目標達成までのステップを粘り強く丁寧に取り組むこと」を意識して、それぞれの目標へ一歩でも近づくことを願っています。

立冬(りっとう) 今年11月8日～11月21日ごろ



立冬とは、木々の葉が落ち、冷たい風が吹き、冬枯れのようなすが目立ち、冬の気配が山にも里にも感じられてくる頃のことです。とはいうものの、先週の後半は、日本のあちらこちらで25℃以上の夏日を記録し、季節外れの陽気となりました。本来は「立冬」という時期に差しかかっているはずが、季節が初秋に戻ったような感覚を覚えましたね。「立冬」にふさわしい空気感を感じるのには、もう少し先のことになるのかも知れません。

この時期、子どもの無事な成長を願う七五三の風習や、語呂(ごろ)合わせて制定された「いい鍋の日」(11月7日)があります。冬の始まりにあたる時期なので、暖房器具や冬物の衣類の準備なども行われます。冬の寒さを運んでくる北寄りの風「木枯らし1号」が吹くと、いよいよ本格的な冬の到来となります。ここで一首紹介します。

【●街をゆき 子どものそばを通るとき 蜜柑(みかん)の香せり また冬が来る 木下利玄 作】

(意味:街を歩いて、遊んでいる子どもたちのそばを通るとき、ふと懐かしい蜜柑の香りがしてきた。そうか、また冬がやってくるのだなあ。)

蜜柑を味わっていた子供たちの笑顔や「香り」で季節の移ろいを感じる作者の鋭い感性が想像されます。

保護者の皆さまへ

平素は本校教育にご協力・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

3年生の保護者の皆様におかれましては、先日の進路説明会に多数ご出席いただきました。

また、1・2年生につきましては、11月16日(木)5・6時間目に分散型の授業参観を予定しております。ご多用のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

※「令和5年度全国学力・学習状況調査」の本校の結果について、学校HPに掲載しておりますのでご覧ください。

併せて、学校の様子を学校HP内「学校生活の様子」より随時アップしておりますので、ご覧ください。

